

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2020年3月)

【内政】

- 11日、国家独立選挙委員会(CENA)は、5月の地方議会議員選挙の立候補届出文書の提出を締め切った。9党(BR党, FCBE党, UNDP党, UDBN党, PRD党, MOELE-BENIN党, MPL党, FCDB党, PER党)が文書を提出した。(13日, La Nation 紙)
- 30日、国家独立選挙委員会(CENA)は、地方議会議員選挙への参加要件を満たし正式登録された政党を公表した。BR党, UP党, FCBE党, UDBN党, PRD党の5党が登録された。(31日, La Nation 紙)

【治安・保健】

- 4日、政府は閣議においてコロナウイルス対策として、感染国からの入国者に対する2週間の自己隔離の義務づけ、握手の回避、中国留学中のベナン人学生に対する財政支援の拡大、感染国への不要な渡航の抑制等の決定を行った。(5日, La Nation 紙)
- 16日午後、ベナンにおいて初のコロナウイルス感染者が確認された。同人は49歳のブルキナファソ国籍者で、12日にベナンに入国した。隔離施設で治療を受けており、接触者の特定が行われている。(17日, La Nation 紙)
- 17日、政府は臨時閣議を開催し、コトヌ空港から入国するすべての者に対し、政府指定のホテルに強制的に隔離検疫することを決定した。(20日, La Nation 紙)
- 23日、政府は30日から4月13日までの15日間、ベナン南部の10地区を防疫地帯に指定し、不要な移動を抑制するよう国民に通達した。(24日, La Nation 紙)

【経済】

- 10日、NECグループとズマル・デジタル相は、小西淳文駐ベナン日本国大使の立ち会いの下、ベナンでのデジタル分野での事業実施に係る覚書に署名した。(11日, La Nation 紙)
- 13日、小西淳文駐ベナン日本国大使とアベノンシ外務・協力相は、コトヌ市ベドコ立体交差点の建設計画(詳細設計)に係る交換公文の署名式を実施した。詳細設計の費用は1億2,300万円に上る。(16日, La Nation 紙)

【文化・その他】

- 7日、日本国大使館は、ベナン柔道連盟、CFAO Motors社及びSANKO社との共催で、2020年柔道大使杯を開催した。小・中学生、高校生の男女約300名のベナン人柔道家が出場した。(13日, L'Événement Précis 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'Économiste 紙、および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ 2日, ニヨンロンフン・ベナン共和国仲裁官は, ポルトノボ市の事務所において, 5月17日の地方議会議員選挙が平和裏に実施されるようベナン国民に向けて呼びかけた。(3日, La Nation 紙)
- ・ 11日, 国家独立選挙委員会(CENA)は, 5月の地方議会議員選挙の立候補届出文書の提出を締め切った。9党(BR党, FCBE党, UNDP党, UDBN党, PRD党, MOELE-BENIN党, MPL党, FCDB党, PER党)が文書を提出した。(13日, La Nation 紙)
- ・ 30日, 国家独立選挙委員会(CENA)は, 地方議会議員選挙への参加要件を満たし正式登録された政党を公表した。BR党, UP党, FCBE党, UDBN党, PRD党の5党が登録された。(31日, La Nation 紙)
- ・ 国民議会事務局は, 2020年第一次通常会期が4月7日に開会されることを公表した。(27日, Le Matinal 紙)

【外政】

- ・ 4日, ヴラヴォヌ国民議会議長は, シビヤ駐ベナン南アフリカ大使を迎え, 両国の関係強化について意見交換を行った。(5日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 7-10日, アベノンシ外務・協力相はキューバを訪問し, ベナン・キューバ合同委員会の会合を開催し, 両国の友好関係を総括した。(16日, La Nation 紙)

【治安・保健】

- ・ 3日, アボメ・カラヴィ市ベガメ地区において, 武装した強盗犯が警察に射殺される事件が発生した。犯人はゴドメ地区及びウォメ地区において強盗をはたらいたとされている。銃撃戦には市民数名が巻き込まれた。(4日, Le Matinal 紙)
- ・ 4日, 政府は閣議においてコロナウイルス対策として, 感染国からの入国者に対する2週間の自己隔離の義務づけ, 握手の回避, 中国留学中のベナン人学生に対する財政支援の拡大, 感染国への不要な渡航の抑制等の決定を行った。(5日, La Nation 紙)
- ・ 5日, 内務・治安省は, イスラム過激派の予防を目的に第3回治安に関する会議を開会した。軍・警察の幹部, 県知事, 国民議会議員, 市長らが参加し, 治安対策について協議する。(6日, Le Matinal 紙)
- ・ 5日, ウンパティン保健相, ラフィア内務・治安相, ワダニ経済・財務相は, コロナウイルス感染者の隔離及び治療のためにコヌ市内に設置された施設を視察した。同施設は3部屋から成り, うち2部屋は感染の疑いがある者向け, 1部屋は感染確認者の治療用に充てられる。(6日, 11日, Le Matinal 紙)
- ・ 9日のベナン国軍参謀本部による発表によれば, 2019年実施の国軍兵士・警察官選抜試験において警察官600名, 国軍兵士500名が合格し, 採用された。選抜試験は身体能力試験と筆記試験から構成される。(11日, Le Matin Libre 紙)

- ・ 16日午後、ベナンにおいて初のコロナウイルス感染症例が確認された。同人は49歳のブルキナファソ国籍者で、12日にベナンに入国した。隔離施設で治療を受けており、接触者の特定が行われている。(17日, La Nation 紙)
- ・ 17日、政府は臨時閣議を開催し、コトヌ空港から入国するすべての者に対し、政府指定のホテルに強制的に隔離検疫することを決定した。(20日, La Nation 紙)
- ・ 18日、ウンパティン保健相は2人目のコロナウイルス感染者が確認されたことを発表した。21歳のドイツ人女性で、11日ミュンヘンとパリを經由してベナンに入国した。(19日, Le Matinal 紙)
- ・ 19日、在ベナン中国大使館はベナン政府に1,500のコロナウイルス検査キットを提供した。引渡式にはウンパティン保健相とペン中国大使が出席した。(20日, Le Matinal 紙)
- ・ ベナン・イスラム連合は、イマーム、イスラム教協会、信者らに向け、ベナン政府が講じるコロナウイルス対策に従うよう呼びかけた。(20日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 21日、政府はコロナウイルス対策として、宗教関係者と協議の上、22日から4月5日まですべての宗教施設を閉鎖することを決定した。(23日, La Nation 紙)
- ・ 23日夜、ウンパティン保健相は、ベナンにて新たに3名のコロナウイルス感染者が確認されたことを公表した。ベナンでの感染者の累積数は5名となった。(24日, La Nation 紙)
- ・ 23日、政府は30日から4月13日までの15日間、ベナン南部の10地区を防疫地帯に指定し、不要な移動を抑制するよう国民に通達した。(24日, La Nation 紙)
- ・ 24日、保健省次官は国営テレビにて、コロナウイルス感染者の中から初の治癒者が出たことを公表した。(27日, Le Matinal 紙)
- ・ 27日、パラク市ティティル地区において、40代の女性が自宅にて絞殺されているのが発見された。(30日, La Nation 紙)
- ・ 28日、ウンパティン保健相は、コトヌ空港において中国のジャック・マ財団からコロナウイルス対策用品(検査キット、マスク、防護服等)を受け取った。(30日, La Nation 紙)

【経済】

- ・ 3日、小西淳文駐ベナン日本国大使、ドスウイ農業・畜産・漁業相の出席の下、PROVAC地域セミナーが開催され、中間報告が行われた。4日、セミナーの一環として参加者らは養殖現場を視察した。(4, 5日, La Nation 紙)
- ・ 5日、ワダニ経済・財務相とEBID(ECOWAS開発・投資銀行)総裁は、ベナン国内の自治体において750の電化設備を導入するための借款の合意書に署名した。(6日, La Nation 紙)
- ・ 10日、NECグループとズマル・デジタル相は、小西淳文駐ベナン日本国大使の立ち会いの下、ベナンでのデジタル分野での事業実施に係る覚書に署名した。(11日, La Nation 紙)
- ・ 11日、政府は失業問題を解消するため2019-2025年期国家雇用政策を閣議で採択した。同政策には教育課程修了後の資格保有者の雇用確保、長期失業の解消、労働市場に関するガバナンスの改善などが盛り込まれている。(12日, Le Matinal 紙)

- ・ 13日, 小西淳文駐ベナン日本国大使とアベノンシ外務・協力相は, コトヌ市ベドコ立体交差点の建設計画(詳細設計)に係る交換公文の署名式を実施した。詳細設計の費用は1億2,300万円に上る。(16日, La Nation 紙)
- ・ 国立統計・分析研究所(INSAE)による雇用とインフォーマル・セクターに関する地域総合調査により, 労働者の41%の所得が中央値の2/3以下しかないことが明らかとなった。(24日, L'Économiste 紙)
- ・ 21日, コトヌ自治港は役員会議を開催し, 大型貨物船の停泊を可能にするため受入能力を拡大することを決定した。今後数年間で2,500億CFAフラン(約500億円相当)が投資される。(26日, L'Économiste 紙)

【文化・その他】

- ・ 6日, 中国・ベナン協力のためのメディアネットワーク(MCSB)は, ペン駐ベナン中国大使とコロナウイルスに関する意見交換を行った。(11日, L'Économiste 紙)
- ・ 7日, 日本国大使館は, ベナン柔道連盟, CFAO Motors社及びSANKO社との共催で, 2020年柔道大使杯を開催した。小・中学生, 高校生の男女約300名のベナン人柔道家が出場した。(13日, L'Événement Précis 紙)
- ・ 7日, 12歳以下対象の西・中部アフリカ地域テニス選手権がコトヌ市で開催され, 男子の部ではガーナ人選手, 女子の部ではナイジェリア人選手が優勝し, アフリカ大会に出場することが決定した。ベナン人選手は男子の部で3位に入賞した。(10日, La Nation 紙)
- ・ 米国・国際NGOフリーダム・ハウスによる世界自由度2020年版報告書が公表された。2019年世界自由度ランキングにおいてベナンは66/100を記録し, 前年より13ポイント落とした。(2018年は79/100)。(10日, L'Économiste 紙)
- ・ 11日, 日本国大使館は, 2020年度国費留学生の渡日前オリエンテーションを開催し, 新・旧留学生が日本での留学生活に関し意見交換を行った。(17日, L'Événement Précis 紙)
- ・ 13日, 中国文化センターは, コロナウイルスの犠牲者追悼のため, 芸術作品の展示及びコンサートを開始した。30日まで実施予定である。(16日, L'Économiste 紙)